

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (毎月一回十五日發行)

阿武郡報

第三十號

朝晴雪



町村長集會

郡長訓示要項

一月九日十日の二日郡内町村長集會を開催し當日郡長より訓示したる要項及其の他の事項左の如し

茲に平和第一の新春を迎へ各位と一堂に會して地方行政の伸展に就き所見の一端を開陳するの機會を得たるは本官の最も欣幸とする所也

大正八年の年頭に立ちて最も心に強き響を感じたるは憲法發布滿三十年の春を迎へたることと積年の戰雲全

天皇陛下御製

ゆたかにも雪をつもれる秋津しま

めぐりの海は朝なきにして

皇后陛下御歌

青雲にほふ日かけものごかにて

雪さへかすむこのあした哉

大正八年一月十四日印刷
大正八年一月十五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷

印刷所 萩 響海館

く散じて天地開朗の舊觀に復し世界の人類悉く平和の希望を以て滿たされたる新年を迎へたることの二也我國憲法發布せられしより帝國議會を開會せられたること茲に四十一回を重ねて官民參政の訓練漸く發達せるものありと雖も憲政の實績を擧ぐるは前途尙遠遠の觀なき能はず則ち上下一致國民本務の大なるものあるを切感し君民一致の幸福を増進するに努めざる可らず憲政上の意義を徹底せしむるには選舉權の擴張と納稅義務の履行とを現實にすべきこと最も大切なる問題なりとすべし選舉權擴張のことは今や朝野の一大問題として論議せられつつあり時代の氣運漸く動き必ずや今期議會に於て選舉權擴張と區制問題と一括して決定するに至るべし斯くて擴張せらるべき選舉權の尊重と選舉權の半面に存在する納稅義務の履行に就きては特に忠實ならんことを努めざるべからず憲法發布滿三十年を迎へて感愈深く郡民一般新に憲法上に於ける權利義務の尊重に想到せられんことを希望して止まざるなり

歐米交戰國の如く甚だ多からずと雖も均しく交戰國の一員として活動する所ありたるに依り物質的に精神的に受けたる影響決して鮮少なりとせず隨て戰後將來の施設に就きては深甚なる注意を加へて經營する所なるべからず林前本縣知事は一昨年戰後準備共勵會を開きて戰後の經營に關し特に八大事項を列擧して其の勵行を促し中川本縣知事は更に一層之が徹底を促し且つ地方改良會を設立して地方民風民心の作興を企て地方自治の根柢を確立せしむべきことを勸奨せられたり歐洲大戰の終息と共に之か各種の事業悉く緊要にして其の實行を現實にし其の精神を貫徹するの要あるを痛感すると共に特に力を教育の振興に效さざるべからざることを切實に感ずるもの也舊臘十二月二十五日長くも 聖上陛下高等教育機關擴張の思召を以て御内帑金壹千萬圓を下し給ひ益々教育の振興を御念あらせられ給ふこと洵に感激恐懼に堪へざる所なり新聞紙の報ずる所に依れば政府は 聖旨と奉戴して既に慎重なる研究を遂げ大正八年度以降繼續事業を以て高等學校十六校増設高等專門學校十七校増設し高等專門學校を單科大學に昇格せしむべきもの六校を數ふる等高等教育機關の擴張及教員養成の爲め費金綜して四千四百萬圓

を要し完成の上は高等教育機關に學生約壹萬貳千人の多數を増加收容し得べしとの事也政府は數年來臨時教育調査會に諮詢して二十年來の宿案たる義務教育國庫補助問題を解決し大學令高等學校令を改めて最近之を公布し朝野教育に志ある者亦義務教育の延長に關して研究の歩を進めつつあるもの如し英國は戰時中文部大臣フィッシャーの努力に依つて義務教育を延長し補習教育を完全にし佛國は最近更に義務教育年限の延長を企て獨逸は各聯邦殆んど皆八ヶ年の義務教育を施し其の上二箇年補習教育を義務とし盛に教育の改善發達に努力しつつありと聞く我國地方財政の多端なる際俄かに義務教育の延長を實行すること能はずとするも必ず早晚之が解決をなさざるべからざるものなりと信ず殊に補習教育を義務教育となすこと地方の實情に照し寧ろ切實に其の要あることを感ずるものなり戰後の教育を論ずるに當り地方として特段の注意と實行を要すべきは一小學校及實業補習學校の設備を完全にし教辦教具の整頓に努め二兒童生徒の就學出席を一層善良ならしめて皆就學皆出席を期し三生徒兒童の體力氣育を向上するに努め元氣あり正氣あり活き／＼せる人物たらしめんことに心懸けしめ四教育者の待遇を一層潤澤に

し教育者の修養研究に一段の力を加へしめんことを期すべく五青壯年團の發達振興を圖るは勿論婦人會を設立し青壯年團と相俟ちて適切なる教育訓練に力を効し在郷軍人會との連系を密接にし報德會の振興に努力し六尙小學校兒童の家庭の實情を考察し可成上級の學校に入學せしむることを努め大に尋常小學校卒業生をして殆んど全部を高等學校に進學すべきやう勸奨せんことを望む郡内各町村に於ける高等小學校進學歩合は平均僅かに五七、九六を示すに過ぎず中にも彌富村の如きは二五、三三六島村は三〇、七七須佐村は三七、二一徳佐村は三七、三三の低率を見る如く遺憾甚しとせざるなり各位の努力に依り大に向學思想の向上を促し高等小學校進學歩合の増加を圖り教育の普及徹底を期すと共に他日に於ける義務教育延長に資するの策を立てらるべし今後義務教育の延長を見るの機運に進まば教員の資質を向上するの要あるに至り高等師範學校及大學卒業生にして小學校教育に従事する者多きを加ふるに至るべし此頃既に先進地方殊に東京大阪神戸等の都會に於ては次第に高等師範學校卒業生の小學校教育に従事する者多きを加ふるに至れりと聞く現に高等師範學校に於ては特に教育研究科と稱し本科より稍や程

度の低きものを作り小學校の上席教員を養成するを目的として教養しつゝあり今日の如き物價昂騰の場合に於ては其の責任の重大なるものあるに反し待遇の非薄なること小學校教員の如きもの他に多く類例なきを感ず師範學校卒業の少壯教育者にして拾八圓貳拾圓の俸給を受け自己一人の生活にすら殆んど何等の餘裕を得る能はず父母妻子を有し薄給に苦しむ者決して少しとせず今日全國到處教員欠乏の嘆聲多く師範學校入學志願者の著しく減少しつゝあるの實況を見るに於ては教員の待遇に關して考慮を費さざるべからざるものありと信ず天職を樂め清貧に安んぜよと云ふは今日彼等に向つて言ふに忍びざる事也到底十分なる報酬なくして優良なる人物を得んことを望むは不可能なり政府に向つて義務教育費國庫補助の増額を熱望すると共に町村自體に於ても更に考究を重ねて教員優遇の爲めに教育費の増加を辭せざるの決心覺悟なかるべからず英國が戰時中國費多端の際何よりも重大なる問題として教育の改善に志し斷乎として教育改革の事を策し文相フインシャの努力と熱誠とは能く英國上下の民心を動かし教育改革に要する四千萬圓教育費増加案も議會滿場一致を以て之を可決し義務教育を延長し新に晝間教授

の補習學校に滿十四歳以上十八歳未滿の者を收容して義務教育を施し更に兒童學生の體育を改善し小學校教育費國庫補助額をも増加して一億八千萬圓とせり我國は小學校教育費國庫補助額僅かに壹千萬圓なるが故に英國の十八分の一にしか相當せず佛國も義務教育を延長し教育振興の策を樹立せり米國は最近盛んに任意の中學校を増設して教育の普及を圖り殊に米國は公立中學校悉く全然授業料を要せざるのみならず下層階級の子弟に對しては書籍學用品を貸與する方法をも講じ居れりと聞く國民の智德能率を高むること刻下最も大切なる問題たるべし教育の事に關しては更に進んで思想問題に就き一言せざるを得ざるなり今や世界の思潮は激しき動搖をなしつつあり我帝國が其波動に觸れて國民思想に變化を受くるが如き事をさやを疑ふものあり最近我が國最高の教育會議に於ても之等の事に及んで建議表はれ研究決議をなしたる事ありと聞く成程露西亞は露西亞の帝政を亡ぼし獨逸は獨逸の帝政を轉覆せるも露西亞人彼等は帝政そのものを亡ぼすことこの目的にあらすして寧ろ專制政治の實を亡ぼすことが彼等の目的たりしこと露西亞近世史より推斷し得べし獨逸の帝政轉覆も世界の平和を害する軍國主義破壊の目的に

動きたるものたるを知り得べし世界列強中帝國として英國と我國とのみなりしとて心細き感を抱き我國にも國體に對する不健全なる思想を抱くものあるべしとの考を抱き國家の前途を危懼するものあるが如きも之れ畢竟謬想たるを信じて疑はざるなり金匱無缺の我國體は永久に變化するの恐れなく天地と共に悠久なるものなり我國民の國體に對する信念は三千年來の國民的遺傳性なり何物を以てするも抜く能はざる遺傳的國民性にして絶對信念なり併し茲に注意を要すべきことは從來熾烈なる愛國心は我國民特有の精神なりとして大和魂を説き來りしも今回の歐洲戰亂に依り殆んど之と同様なる愛國心を歐米各國にも有し居ることを事實に立證せり即ち聯合國と同盟國とを問はず激戰肉迫猛烈なる奮闘をなしたるは勿論軍國の爲めには禁酒減食の事國民擧つて之を嚴守したり英國が一度徵兵令を布き米國が徵兵令を通達せし結果は如何米國の如き單に新聞紙のみを以て全國十八歳以上四十五歳迄の男子は九月十二日迄に徵兵登記所に出頭し名簿に登録せよとの記事を掲載したるのみにて同日午前八時より午後九時迄の間に全國一千三百萬の壯丁悉く進んで登録所に出頭し自ら名簿に登録し敢て免役を企つるものなかりし

と聞く國民的精神の盛んなる誠に驚くべきものあり我國現下の情勢國民の思想殊に青年の思潮雜然混沌たるものあらんも國體に觸れ不健全なる思想を抱くものなきは確信して疑はざるなり 皇室を中心とせる勤王主義の教育に依り我國民の血より血に享け遺傳的も最も強固なる國民精神を永久に傳へつつあり殊に我防長二州所謂勤王主義教育の淵源とも云ふべきもの也藩祖元就公以來教育事業は隆々として發達し來り敬親公元徳公の御時代に及び精華は發して遂に維新回天の大業をも成就するに至れり萩明倫館と松下村塾との教育的偉業は永久に忘る能はざるものあり萩は勤王主義教育の策源地なり我阿武郡は最も光輝ある歴史を有するの地なり三浦將軍嘗て山口縣人は國民指導の大役を負ふものなることを忘るべからずと云へり阿武郡の教育事業に關與するもの誠にこの心を以て心とし益々勤王主義防長の教育を旺盛にし戰後國策樹立に貢獻する所なかるべからず特に各位一段の奮勵を望む 産業に關しては屢々説示する所ありたる如く我阿武郡として盛んに養蠶、畜牛、造林、水産の發達に就き力を致さざるべからざるものあることを切感し居れり又食料問題に關聯し米麥作の改善固より重要なるべく耕

地整理事業を益々旺にし特用作物の奨励にも一段の力を加へ多收多益を圖らんことを期す 養蠶、畜牛、造林は郡内各地共通の事業也益々力を加へて大に其の成績を向上し戦後の經營として非常なる發達を期し居れり本年内に於ては山葵の栽培蠶表の製造に力を入れ地方重要なる産物たらしめんことを心懸けつつあり水産業は近時魚價の昂騰に依り大に活氣を加へ來りたるの感あるも一般に其の思想古く殆んど昔ながらの業態に甘んじ積極的進歩の經營振りを見ることも皆無の情態に在り是非とも科學的智識を應用して漁船を改良し漁具を改造し特に漁業團體の理事者も漁業者其者も舊來の迷夢を覺醒し日新文明の思慮に基き世界的大勢を洞觀し事業の振興を圖るの氣分を旺盛にせざるべからず漁業部落に於ける教育程度の向上を策すること亦水産業改良上の重要問題たるべし且つ又本郡の水産業としては遠洋漁業を各漁浦に普及するの策を立て漁船、漁具の改良を促して盛んに遠海漁業を發達せしむべきことと見島避難港の築港を實行すべきことに力を致すべし見島を中心とせる日本海は本邦稀に見る好箇の漁場なり昨年通常縣會に於て港灣調査の費金議決せられ本年より其の調査に着手することとなり居れば近く實行

を見るに至るべし
自治事務は本官赴任後特に精細なる注意を加へて指導奨励せし所なり幸にも各位を始め各町村長幹部の人々眞摯切實に其の事に膺り熱心盡力せらるるの結果郡全般に涉り漸く面目一新の感あるに至れり町村役場に於ける記録簿冊の編綴保存に就きても僅かに三四の町村を除くの外大多數の各町村全部之を縦式に改め記録の内容を精査し外觀を整へて確實に之を整理保管し村勢調査原簿も三箇町村を除くの外他は悉く之を整頓し條例規則類の整理村史村圖の調製を企圖するもの多く印鑑簿の新調現住者戸籍小票の調製等の事にまで及び事務の發達見るべきもの尠しとせず殊に納稅事務の改善に向つては其の成績洵に驚くべきものあり町村稅戸數割附加稅のみに就て之を云ふも大正二年度滯納者郡全般に涉り五、一八九人大正四年度には六、二七三人大正六年度には尙三、二八五人の多數を算へしに大正七年の前期には滯納者郡全体に涉り二七一人の少數となり其の後期に至りては更に減少して滯納者百八十二人の少數となれり今や郡内二十七箇町村を通じ完納の實績を挙げ居るもの國稅に廿四箇村縣稅に十二箇村村稅に十二箇村村稅中戸數割附加稅に於て十八箇村の多き

を數ふるに至れり完納の實績を挙げ得ざるもの内には一人二人若くは三人五人と云ふ如く極めて少數なる滯納者のみなるもの滯納町村中十一箇村の多數あり而かも其少數なる滯納者の殆んど全部は所在不明のみものあり故に滯納者を有する町村としては僅かに萩町と篠生村と福賀村との三箇町村を滯納の重なる町村とすべし椿東、三見、山田、奈古、宇田郷、見島六島の如きは何れも大部の漁業部落を有し納稅情況極めて困難にして從來多きは三百名に近く少くも五六十の滯納者を算したる所なりしが村當局の熱誠なる努力に依り昨年前期若くは後期より何れも滯納者皆無の良成績を擧ぐるに至れり明木、佐々並、椿、吉部、地福、大井、三見の如きは村民の訓練漸く熟し確實に完納の實績を永久に持續し得べしとの確信をなし得るが如きも納稅の事は決して愉快を許さざるものなり他の諸村と共に須臾も油斷あるべからず萩町は郡下第一の名邑にして町民三千五百戸隨て生計困難なる者も多數あるべく納稅の成績を擧ぐるに於ては其の困難あること他の村落と同日の談にあらざるべし萩町には從來模範納稅者たる官公吏教員、神職、僧侶、町村會議員、區長、有力者等の中何れの種類に屬する人なりとは言はざる

もこの模範的納稅者とし數ふべき人の中に多年多數の滯納者ありし程にて隨て町中滯納者常にも多く縣戸數割及町稅戸數割附加稅の如き大納稅の場合は何れも少くも千三百名以上多は千五百名以上の滯納者を數へし所なりしが昨年八月町當局の發奮に基き區長及區長代理者を督勵し格別熱心なる施設に依り一躍僅かに七十六名と云ふ極めて少數なる滯納者のみとなり空前の好成績を擧ぐるに至れり小倉新町長は更に一段の力を加へ毎期完納の良成績を收めんことを期し督勵されつつありと聞く篠生村は鐵道工事施行後外來の者多數入込みたると一面村内滯納者常習の風未だ脱却せざる等の關係より一村内百名以上の滯納者を數へし所なりしも昨年後期には漸く革新の機運動きて滯納者三十餘名の少數となり口羽新村長均しく納稅事務革新を理想とし督勵せられつつありとのことなれば完納の實績を見るに至ること亦遠きにあらざるべし福賀村は數年來村當局の熱心なる努力に依り今僅かの所迄に追ひ攻め居り上村村長同様努力せられつつあり之亦完納の目的を達すべきこと至難ならざるべし萩にして最後の奮闘を試み區長及區長代理者の特別努力を求め完納成績を擧ぐるに至らば全部完納の目的を達すべき日必ず近き將來な

るべきを確信して疑はず大正八年は必ず其の目的を達して全部完納の實績を擧ぐべし特に各位の熱心なる努力を希望して止まざるなり

一昨年郡内町村巡視に當り試みたる自治懇談會は以外にも其の効果ありたるものの如く町村各機關を通じ何物かを捉へ來りて自治民育の發達に貢献せんとするの風起り報徳會の發達と共に民心何處となく和き公事に關しては協心同力勞苦を辭せざるの風をも加はり就中學校の教辨整頓に意を用ひ進んで多額の金品を寄附するもの續出し比較的困難なりし部落有財産の統一も之を實行し林野整理の大事業も多くの困難なくして之を進め中には多年の懸案たりし學校の改築も之を決定するの運に至りしものある等過去一年間に於て郡全体を通じ著しく其成績を擧げ殆んど面目一新の感あるは衷心の欣快洵に禁ずる能はざる所なり

以上叙述せし各般の事項に對し各位幸に本官の意の存する所を諒とし更に一段の力を加へ此上尙十分なる成績を擧ぐるに努力せられんことを切望す

指示事項

一、教育の振興に關する件
教育の振興を圖り之れが充實を期せるは國運を隆昌

にし民福を増進する上に於て其の源泉たるべきは今更喋々を要せざる所なり謹んで惟みるに 明治天皇陛下に臣民の教育を診念あらせられ明治五年學制を頒布して教育制度の基礎を樹て給ひ尋で明治二十三年教育に關する勅語を下賜せられて帝國教育の大本を定め給ふ 今上陛下亦深く敬慮を教育に注がせられ先帝の遺緒を紹述して益々其の振興を圖らんとし給ひ大正四年優詔を文部大臣に賜ひ今亦高等教育機關完備の思召を以て御内帑金壹千萬圓を下し賜ふ聖旨深遠國民誰れか感激せざるものあらんや局に膺るもの夙夜匪懈最善を盡して以て教育の徹底に努力し 聖恩の萬一に奉答せざるべからず各位宜しく其の旨を體し其の町村教育の振興を圖ると共に特に左の諸點に留意し其の普及徹底に盡力せられんことを望む

- 一、小學校児童の皆就學皆出席を期すること
- 二、實業補習學校の施設を完ふし生徒の就學出席を極力獎勵すること
- 三、小學校理科教授に關する設備を完ふし科學的智識の涵養に一段の力を加ふることを
- 四、小學校に於ける教辨の整備及體操器械の充實を

圖ること

- 五、小學校教育の内容改善を期し教育者の研究修養に就き一層の力を加へしむること
- 六、上級學校入學志望者を増加し大に高等小學校進學を勸奨し小學校義務教育の延長に資すること
- 七、小學校児童及青壯年團員の体育氣育に就き一層の注意を加へ成績の向上に努力すること
- 八、圖書館の設置及内容充實を圖り讀書力の養成に努むること

二、報徳會督勵に關する件

今や世界の大戦亂も漸く休戦の時期に入り平和の克復を見る亦方に近きにあらんとす平和克復後に於ける世界の大勢を察するに思想上並に經濟上更に一層の變化あるべきは想像に難からず吾人國民たるもの一段緊張せる氣分と嚴正なる覺悟とを要するは言を俟たず本官町村監督其の場合に就き常に機會を需めて地方の民情を查察するに報徳會設置以來各種の方面に於て改善せられたるもの多きを認むると共に又一面民風の作興報徳會の振興と其の軌を一にするものあるを切實に看取し快感禁ずる能はざるものあり本會の振興に關しては客年十月各位の集會に於

三、婦人會設立に關する件

地方風教の改善を圖り民心民風の作興を促して國利民福を増進せんとするに於て婦人會の設立を企圖し之れが指導に努め智徳を啓培すること實に緊切に屬すべし所なりと信ず郡下町村中既に婦人會と設置して之れが指導を怠らざるものなきにあらざり雖も尙は其數甚だしく地方開發の將來に鑑み殊に遺憾なき能はず依て此際各位と共に之れが設立指導に努め青年團のそれと相俟ち各町村全般に涉り有力なる團體を組織し其の目的を達成するに至らんことを望む

四、全郡完納の實績實行に關する件

町村自治事務改善の第一歩は滞納矯弊に在るを認め本官赴任後不斷之が指導獎勵に大なる力を致せり幸にして本郡に於ける納稅狀況は各位の熱誠なる努力と町村民の自覺とに依り近時著しく良好なる成績を認むるに至りたるは各位と共に衷心欣快に堪へざる

所なり即ち別表の如く完納村期を逐ふて其の數を増加し大正七年度後期に在りては國稅に於て二十四ヶ村縣稅に十二ヶ村町村稅に十二ヶ村就中戸數割附加稅に於て十八ヶ村の完納村を數へ得るに至れり更に此機に乗じて一層の力を致し本年度内に於ては必ず全郡完納の實績を擧げ多年の宿弊を根絶せんことを期す各位亦全力を傾注して其の目的を貫徹すべく一段の努力を加へられんことを切望す

五、各種團體史編纂に關する件

郡の事業として郡史を編纂し町村亦村史の編纂を企劃し團體史編纂の機運漸く旺ならんとするに至れり各位は更に其の町村内に於ける神社農會產業組合青年團在郷軍人分會等の團體に就き團體史編纂の事を懇懇せられ速に之れが編纂を完了すべき様盡力せられんことを望む

六、貯蓄獎勵に關する件

客年十一月内務、大藏、遞信、農商務四大臣の訓令及十二月山口縣知事告諭第一號(別紙参照)に基き國民生活の基礎を鞏固にし生産資金の充實を期する爲め勤儉貯蓄の獎勵をなすは最も喫緊の要務なりとす各位宜しく適當の方法を講じ訓令の主旨に副ふべく

七、蠶業獎勵に關する件

大正六年の狀況に鑑み大正七年は繭の産額著しく増加すべく期待せしに天候不稔の結果違算を生じ收繭高二千九百八十七石にして前年に比し五十四石の減少を見るに至りしは遺憾とする所なりと雖も養蠶戸數は大正七年三千四百三十戸にして前年に比し二百七十四戸を増し桑園反別は大正七年四百十八町三反歩にして前年に比し三十五町五反歩を増加し本郡の養蠶業は進歩しつつありと謂ふべく又資本金五十萬圓の萩製絲株式會社設立も漸く確定し本年早々工場建築に着手すると共に春繭より買入をなさんとする豫定にして本郡蠶業獎勵上一段の力を加へ戦後世界の大勢上蠶絲の需要一層の進歩を見るべきを想像するに難からず又蠶業は農家の收入を大ならしむるには恰好の副業たるべきと信するにより之が獎勵に

一段の方法を盡し徹底的に斯業の振興を期せられんことを望む

八、山葵及疊表製造に關する件

山葵栽培は本郡東北部の地勢上有利の副業と認め之が適地調査をなせしに徳佐村外六ヶ村に亘り約五町二反歩を發見せり(別表参照)之に對し試作地の設置栽培法の指導等具體的の獎勵方法を講せんとす又疊表の製造は冬季間農家の副業として最適のもの認め之が獎勵も更に一段の方策を進め徹底的勧誘を試みんとす各位同心協力其の實績を擧ぐるに努力せられんことを望む

注意事項

- 一、陸海軍將校生徒志願者獎勵に關する件
- 二、海軍志願兵徵募に關する件
- 三、林野臺帳調製及林野條例制定の件
- 四、水産業の發達に關する件
- 五、種牡牛改善補充に關する件
- 六、佛教團支部設置に關する件

研究事項

- 一、町村區域境界變更に關する研究
- 郡下町村の區域境界は主として山川溪谷又は道路を

二、滯納者中所在不明に對する研究

以て區劃界限せられ境界線明瞭なるもの動しとせざるも天然不動の區劃に依る能はず犬牙錯綜の情態にありて部落住家の點在境界錯雜せるもの多く行政上不便を感ずる地方あるを認む郡内各地を通じ之等の事實に基き境界變更を要するものと認むべきものに就きては關係町村相互圓滿ある協定を遂げ町村境界の整理明確を期し地方自治の精神を徹底せんことを望む整理實行に關する各位の意見如何

三、區長訓練に關する研究

町村自治の振興を期する上に於て區長の人物を向上し區長訓練の徹底を圖るは誠に地方改良上緊切の要務なりと信す本年內適當の時期に於て數ヶ町村聯合區長懇談會を開催し區長事務の研究を遂げ自治精神

の徹底を期すること亦其の一方法たるべし尙區長の人物向上職務勵行に付施すべき最善の方法如何充分なる研究を望む

特別協議事項

- 一、日本海員接濟會々員募集の件
- 二、防長海外協會設立の件
- 三、赤十字社分區總會並愛國婦人會幹事區總會開催の件

町村吏員任期満了

大正八年中に於て任期満了すべき町村長、助役及収入役左の如し

村長の部		収入役の部	
任期満了月日	町村名	氏名	氏名
五月十日	福川	佐伯庄吉	横山良吉
六月廿八日	椿	平野庄吉	鈴木徳八
九月七日	生雲	佐々木靖夫	小林荒太
十月十一日	宇田郷	清水百合七	河村鹿藏
十月十八日	福賀	上村多喜熊	

郷社祈年祭祭典日時

助役の部		収入役の部	
任期満了月日	町村名	氏名	氏名
二月五日	紫福	和田正平	川上
二月廿八日	篠生	河村鶴吉	山田
五月七日	彌富	岩本好太郎	萩田
六月六日	福川	清水貞七	嘉年
六月十八日	高俣	櫛部徹价	

大正八年に於ける郷社祈年祭祭典日割左の如し

町村名	社名	月日
見島	見島神社	二月十八日
萩島	住吉神社	二月廿一日
六島	大島八幡宮	二月廿二日
奈古	八幡宮	二月廿四日
佐々並	六所神社	二月廿五日
徳佐	八幡宮	二月廿五日
生雲	八幡宮	二月廿六日
福川	八幡宮	二月廿六日
三見	八幡宮	二月廿七日
吉部	八幡宮	二月廿七日
紫福	八幡宮	二月廿八日

◎祭典時刻は何れも午前十時なり

衛生

流行性感冒に就て

大正七年十月中旬の頃より我國各地に世界的流行性感冒蔓延し或は學校に工場に或は官衙に兵營に猛威を逞ふして殆んど全部之を犯し工場を閉鎖し學校を休業せしむる等誠に前代未聞の流行を極めたり

此感冒の原因は果して如何なるものなりやは醫界尙研究中に屬し未だ的確なる斷言を得ざるなり然れども今日迄得たる各種の材料に就き之を推定するに其の最も感ずるものは大正三年以來歐洲に於ける世界的大戰亂が五ヶ年の久しきに亘り互に逐ひつ逐はれつ又永く塹壕に起臥せる不自由勝の生活を持続せる中或は一種の病原物(細菌?)を發生し之れが即ち本病の原因を成し漸次四方に傳播蔓延せるものと思考す一説にはその病原物を生じ之れを獨逸の潛航艇が運んで西班牙の軍人に移し先づ軍隊を基とし西班牙國內に創まれりと唱へ之を西班牙感冒とも稱するものあり

此猛烈なる流行性感冒は西班牙より瑞西伊太利に亘り佛蘭西英吉利を冒し至る所非常なる勢を以て蔓延し一方獨逸より亞米利加に飛び遠く喜望峰を超へて印度洋を渡り印度及南洋諸國を席捲し更に日本に入り猖獗を極めたり

我山口縣も亦此の渦中に投せられ大正七年十月始めて厚狹郡高千帆村に流行性感冒發生以來忽ち四方に侵襲し本郡に於ても吉敷郡を経て東南部より侵入し一方朝鮮より直接萩町に襲來し非常なる勢を以て蔓延し更に本郡中部に向ひて進入し殊に生雲村に於て強烈に其の猛威を逞ふし猖獗を極めたり
本縣下に於ける患者及本郡内小學校兒童の患者表を掲ぐれば左の如し

郡市別	患者總數	死亡者數	現住人口千人に對する比例	
			大正七年十二月三十一日調	大正七年十一月一日調
大島郡	二四、〇四九	一九六	二・八六	
玖珂郡	五〇、三二七	六三六	四・三六	
熊毛郡	三六、〇六六	二七一	三・〇六	
都濃郡	三五、一二六	三六九	三・五九	
佐波郡	四〇、一六二	三八四	四・三四	
吉敷郡	三五、八二三	三四〇	三・〇三	
厚狹郡	三五、五一二	四七三	四・七九	
豊浦郡	五〇、一三二	四五三	三・六八	
美禰郡	一四、五六六	一六一	三・六九	

郡市別	在籍兒童總數	患者數	死亡者數
大津郡	一八、一三六	三三三	六・三五
阿武郡	三〇、八四九	四五二	三・九七
下關市	五七、三六四	三一五	五・一六
合計	四二八、一一二	四、三八三	三・九七

七阿武郡小學校兒童中世界的流行性感冒患者及死亡者數 大正七年十二月十六日調

學校名	在籍兒童總數	患者數	死亡者數
明倫	二、二九五	一、八六二	一
椿東	一、〇八八	九三五	一
越ヶ濱	四三九	三一〇	一
椿西	四二六	三六三	一
白水	六六七	五七八	一
木間	一〇八	一〇五	一
三見	五九三	五七八	一
明木	四二三	三七一	一
佐々	三六七	一七九	一
長高	七四	六六	一
川上	三二九	九三	一
高瀬	一四四	一一六	一

郡市別	患者總數	死亡者數	現住人口千人に對する比例
野呂	七二	六六	一・一
立野	七九	七六	一・一
篠生	一六八	一五三	一・一
持坂	一一六	一一三	一・一
生雲	八九	五三	一・一
藏喜	四一三	三六三	一・一
地福	一九九	一四六	一・一
徳佐	四二二	三六九	一・一
龜山	四六二	四五五	一・一
嘉年	二三八	一九八	一・一
高侯	二八三	二二七	一・一
吉部	三一七	二二六	一・一
福川	三九五	三五四	一・一
半田	五八七	五一四	一・一
紫福	九四	九四	一・一
大井	三九七	三一五	一・一
奈古	五二八	四八一	一・一
宇田	六二八	四二八	一・一
福田	三二一	二九七	一・一
福田	三七六	二四九	一・一
育英	七六九	六五一	一・一

◎産業

□産業組合成績

阿武郡内各種産業組合大正六年九月末及同七年九月末現在に於ける成績を比較すれば左の如し

種目	大正六年九月末		大正七年九月末		比較増減
	現在	三	現在	三	
組合數	一六、一七五	一三、三〇三	一三、三〇三	二九	四

郡市別	在籍兒童總數	患者數	死亡者數
彌富	二六八	二五七	二
鈴野	八一	八〇	一
小川	二五〇	二四〇	一
上川	一一〇	九七	一
下川	一三九	一三二	一
多磨	七二三	六〇九	二
大島	二七八	二二六	一
相島	四〇〇	三七八	一
見島	一六、一七五	一三、三〇三	二九
計	一六、一七五	一三、三〇三	二九

組合員數	五、〇七二	六、九二二	一、八四一
出資口數	九、五七六	二一、八〇〇	三、三三三
拂込出資額	六三、二六六	七九、三三三	一六、一〇四
各種積立金	二九、九七六	三五、九四七	五、九六九
預入金	二〇、八七一	二六、一八〇	一四、九三二
借入金	五、〇四九	三〇、九八九	二五、〇六〇
貸付金	二五七、七二四	三九八、七九六	一四、〇八二
各種貯金	三〇八、六二三	六〇九、九九〇	三一、三七七
購買高	四四、四六四	七二、八七四	二七、四一〇
販賣高	二一、五八〇	二九、五五五	七、九五五
加工料及利用料			
備考 △ハ減テ示ス			

兵事

海軍志願兵検査

大八年徵募の海軍志願兵検査日時場所及徵募官其他氏名左の如し
一、検査日時及場所

二月十二、十三日 阿武郡會議事堂
二月十五日 地福村小學校
二、徵募官其他氏名
徵募官 海軍少佐 朝枝俊三
徵募軍醫官 海軍大軍醫 片倉壽雄
徵募官附 海軍一等筆記 山縣槌市
同 海軍一等看護手 佐々木澄
同 海軍一等兵曹 中居義正
同 海軍一等看護 熊谷三郎

辭令

阿武郡書記 繩田誠記
阿武郡書記 植村茂作
給六級俸(一月一日) 國重爲人
任山口縣阿武郡書記(大正七年十二月廿六日)
給月俸拾貳圓 勸業係勤務ヲ命ス 杉健三
任山口縣阿武郡技手(月日)

給月俸壹圓	勸業係勤務ヲ命ス	金子清一
給月俸貳拾九圓	阿武郡書記	池田孫平
給月俸貳拾八圓	同	有田音彦
給月俸貳拾八圓	同	齋藤民治
給月俸貳拾七圓	同	永田恒一
給八級俸	同	有次三郎
給月俸貳拾四圓	同	三村庄吉
給月俸貳拾貳圓	同	山崎逸男
給月俸拾九圓	同	山本莊輔
給月俸拾圓	阿武郡技手	近好照夫
給月俸貳圓	同	近藤定市郎
給月俸拾九圓	阿武郡產業組合主事補	中村豐人
給月俸拾九圓	阿武郡農業技手	福田茂穂
月俸參拾八圓給與	阿武郡農業技手	近藤定市郎
月俸參拾七圓給與	阿武郡水産技手	藤金綱
月俸參拾四圓給與	阿武郡農業技手	朝太郎
月俸參拾四圓給與	同	坂谷朝太郎
月俸貳拾八圓給與	同	三好照夫
月俸拾八圓給與	同	光永隆信

町村吏員異動

月俸拾七圓給與 同 藤井二郎
(以上大正七年十二月廿四日)
月俸拾七圓給與 阿武郡會計吏員 笹村小源吾
月俸參圓給與 阿武郡役所雇 笹村小源吾
(以上同年十二月廿六日)
神代兼次
三見尋常高等小學校訓導兼校長ニ任ス
六級下俸給與(大正七年十二月廿八日)
三見尋常高等小學校訓導兼校長 神代兼次
兼三見實業補習學校長兼訓導ニ任ス
越ヶ濱尋常小學校訓導 堀重信
東京府ニ出向ヲ命ス(大正七年十二月二十日)
福田尋常高等小學校訓導 藤村マツ
小學校令施行規則第二百二十二條第一號ニヨリ休職ヲ命ス

大正七年十二月二十三日就職	田万崎村收入役	梅地茂一 新任
大正八年一月九日就職	大井村收入役	齋藤常嘉 再選

小學校教員異動

新任ノ部	
新任月日	校名 俸給 職名 氏名
大正七年十二月十三日	明倫月俸拾壹圓 准訓導心 橫地勝
同 十二月十三日	福川七、上 准訓導岡 大カ
同 十二月十三日	生雲十、上 准訓導藏貫ツル
同 十二月十八日	德佐六、下 准訓導山本ナツ
同 十二月十八日	椿西月俸九圓 准訓導心 小野サキ

増俸ノ部	
増俸月日	増俸 現俸 校名 職名 氏名
大正七年十二月二日	八、上七、下川 上訓導 阿武ナミ

轉任ノ部	
轉任月日	轉任校俸 給舊任校 職名 氏名
大正七年十二月六日	大島八、下明倫訓導 長谷川正介

同 十二月三日	豐浦郡 五、下生 雲同 小野フミコ
同 十二月六日	熊毛郡 七、上三 見准訓導池田 タツ
同 十二月六日	同郡 七、上椿 東訓導池田 美成
同 十二月六日	同郡 三丘 七、上椿 東訓導池田 美成
同 十二月六日	同郡 明倫八、下佐々並同 榎原 孝一
同 十二月六日	同郡 育英七、下明倫同 木藤 梅吉
同 十二月六日	同郡 多磨八、上育英同 石橋銀万治
同 十二月六日	同郡 椿東八、上多磨同 笠井 秀正
同 十二月六日	同郡 明倫七、上三見同 長屋幾右衛門
同 十二月六日	同郡 小川九、下高俣同 君谷喜與子
同 十二月六日	同郡 福川九、上德佐同 山中 光一
同 十二月六日	同郡 德佐八、下熊毛郡 高水同 林 春越

退職ノ部	
退職月日	校名 職名 氏名
大正七年十二月十一日	大島訓導 阿川 勝一
同 十二月十二日	明倫准訓導心得 藤田 正實

實業補習學校教員異動

同 十一月三十日	育英同 須郷 利一
同 十二月廿七日	椿西同 林 尚武

新任ノ部	
新任月日	校名 俸給 職名 氏名
大正七年十二月六日	篠生兼農學科教授 囑托 白松岩之進
同 十二月十一日	見島兼准訓導心得 河内壽之助
同 十二月十一日	彌富兼同 長井 茂雄
同 十二月十八日	多磨兼訓導 青原 頼一
同 十二月十八日	椿東兼同 笠井 秀正
同 十二月十八日	德佐兼同 林 春越
同 十二月廿七日	山田兼同 志賀 定彦
同 十二月廿七日	同 兼同 信國 久堅
同 十二月廿七日	同 兼同 山村 秀一

小學校教員免許狀下附

退職ノ部	
退職月日	校名 職名 氏名
大正七年十二月六日	篠生 囑托 長谷川正人

同 同日	同 兼同 大和 サダ
同 同日	同 兼同 尾坂義之

國語科、算術科實業補習學校頭書學科目教員タルコトヲ認可ス(大正七年十二月九日)

宇田尋常高等小學校訓導 財 滿 謙 子

小學校裁縫科正教員タルコトヲ免許ス(同 十二月十九日)

大島尋常高等小學校准訓導心得 井 篤

三見尋常高等小學校准訓導心得 森 田 巖

多磨尋常高等小學校准訓導心得 山 下 誠

小學校准教員タルコトヲ免許ス(同 十二月十九日)

山 下 芳 藏

國語科實業補習學校頭書學科目ノ教員タルコトヲ認可ス(同 十二月二十日)

- 一、忠臣は國あるを知つて家あることを知らず、孝子は親あるを知つて己あるを知らず、
- 一、辭はゆるくして誠ならんことを願ひ、行は敏くして厚からんことを欲す
- 一、儉より奢に移るは易く、奢より儉に入るは難し、
- 一、樵夫は山に登り漁夫は海に浮ぶ、人各其業を樂しむべし
- 一、施しては報を願はず、受けては恩を忘れず
- 一、他山の石は玉を磨くべし、憂患のことは心を磨くべし、
- 一、水を飲みて樂しむ者あり、錦を着て憂ふる者あり、
- 一、出づる月を待つべし、散る花を追ふ勿れ、

(中根東里)

参 考 資 料

持育椿篠篠明三半越木立多大佐野高明椿		坂英東目生倫見田濱間野磨島並呂瀬木西		計		本順		十二月分	
				男	女	計	月	前	位
九七、四五	九六、三一	九六、四〇	九六、五七	九六、八四	九六、三〇	九七、一四	一八		一五
九五、八七	九六、〇三	九六、六三	九六、八〇	九六、九八	九六、七〇	九七、六八	一七		一四
九七、四一	九六、四〇	九六、七〇	九六、八五	九六、九七	九六、九七	九七、九四	一六		一七
九八、四二	九六、六〇	九六、八四	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇六	一五		一八
九八、一〇	九六、七〇	九六、八四	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	一四		一九
九七、六五	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	一三		二〇
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	一二		二一
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	一一		二二
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	一〇		二三
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇九		二四
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇八		二五
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇七		二六
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇六		二七
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇五		二八
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇四		二九
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇三		三〇
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇二		三一
九八、四二	九六、八〇	九六、九七	九六、九七	九七、〇九	九六、九七	九七、〇四	〇一		三二
九九、三九	九九、二二	九九、二二	九九、二二	九九、二二	九九、二二	九九、二二			三三

一、町村立小學校尋常科兒童出席歩合表

目次

- 一、町村立小學校兒童出席歩合
- 二、町村吏員報酬並給料額其他調査表
- 三、國稅滯納人員調査表
- 四、縣稅滯納人員調査表
- 五、町村稅滯納人員調査表
- 六、戶數割附加稅人員表
- 七、小學校兒童體力調査表
- 八、大正七年阿武郡養蠶戶數調査表

第三十號

第三十號

二、町村立小學校高等科兒童出席歩合表										
椿田郷	宇田郷	萩木	明木	佐並	三見	吉部	山田	嘉年	彌富	田崎
男	女	計	本順	月	前	位	本月郡平均	前月郡平均	見島	小部
九九、五六	九九、四八	九九、五三	十一月	十一月	十一月	三	九五、三三	八一、六七	九一、一二	九八、三八
九九、七〇	九九、九六	九九、二七	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九九、二九	九九、一六	九九、二二	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九九、一七	九九、九七	九九、九二	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九八、四七	九八、七九	九八、六〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九八、五四	九八、六八	九八、五八	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九八、九七	九八、三五	九八、五〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九八、二〇	九八、四四	九八、三〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九八、〇〇	九八、〇〇	九八、〇〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九九、〇五	九六、八八	九八、一〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九七、八九	九八、五一	九八、一〇	十一月	十一月	十一月	一	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六

(三)

二、町村立小學校高等科兒童出席歩合表										
鈴野	大井	福川	長高	川上	上川	宇田	紫福	龜山	下川	嘉年
男	女	計	本順	月	前	位	本月郡平均	前月郡平均	見島	小部
九四、五二	九七、四四	九五、九三	十一月	十一月	十一月	三	九五、三三	八一、六七	九一、一二	九八、三八
九六、四七	九五、一二	九五、七七	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九五、六三	九五、五一	九五、五七	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九五、八四	九四、九八	九五、四六	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九五、五四	九四、二〇	九四、八七	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九五、三二	九四、七五	九四、七四	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九四、九三	九三、七五	九四、七〇	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九四、七四	九三、九五	九四、三五	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九四、三二	九三、七八	九四、〇八	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九五、七四	九二、四六	九四、〇六	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九一、四〇	九五、一六	九三、三九	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九四、三九	九二、三八	九三、三九	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九二、七〇	九一、二七	九二、八〇	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九四、〇七	九一、八四	九二、四四	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九三、〇八	九一、九六	九二、一一	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九三、一一	九〇、九五	九一、九六	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九三、八五	九〇、一〇	九一、一一	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九二、〇一	八九、三八	九一、一〇	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九三、六七	八九、三二	九一、六六	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六
九〇、〇八	九〇、三二	九〇、一九	十一月	十一月	十一月	二	八七、九七	八一、六一	八八、六一	八八、三六

(二)

町村名	種目	二、町村吏員報酬並給料額其他調査表					臨時手當月額	書記人員
		現住戶數	報村長	報助役	給收入役	書記		
萩	萩東分	三、三六一	五、七〇七	五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二四、五〇〇	一三、〇〇〇	一五
椿	椿東分	一、七三三	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一六、五〇〇	一五、五〇〇	一〇
山	山見田	五、九	一、九〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一〇
三	三木	七、九〇	二、五〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、三、五〇〇	一〇
明	明並	五、六五	一、七〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、三、〇〇〇	一、二、〇〇〇	一〇
佐	佐上	四、九	二、〇〇〇	一、七〇〇	一、五〇〇	一、四、〇〇〇	一、四、〇〇〇	一〇
川	川生	四、六三	一、九〇〇	一、七〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、四、〇〇〇	一〇
篠	篠雲	七、四〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
生	生福	五、七七	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
地	地福	六、六	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
德	德佐	一、一七〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
嘉	嘉年	四、二	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
高	高侯	五、二	一、六〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
吉	吉部	五、四一	一、七、五	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
福	福川	九、七九	一、七、〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一、四、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一〇
紫	紫福	七、〇二	一、五、〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、三、〇〇〇	一、二、五〇〇	一〇
大	大井	五、五〇	一、五、〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、三、〇〇〇	一、二、五〇〇	一〇

町村名	種目	二、町村吏員報酬並給料額其他調査表					臨時手當月額	書記人員
		現住戶數	報村長	報助役	給收入役	書記		
大	大井	九、七〇〇	九七、〇〇〇	九、九、三二	九七、八二	九七、〇〇	一、二	一一
紫	紫福	九、六、三四	九六、三四〇	九、九、五〇	九七、三八	九七、〇〇	一、三	一一
奈	奈古	九、七、三六	九七、三六〇	九、九、二九	九六、九六	九六、九六	一、四	一一
須	須佐	九、四、九三	九四、九三〇	九、九、二四	九六、三〇	九六、三〇	一、五	一一
川	川上	九、六、二九	九六、二九〇	九、九、九五	九六、一四	九六、一四	一、六	一一
福	福賀	九、四、九八	九四、九八〇	一〇〇、〇〇〇	九五、九六	九五、九六	一、七	一一
小	小川	九、六、九一	九六、九一〇	九、四、三九	九五、八四	九五、八四	一、八	一一
高	高侯	九、四、九六	九四、九六〇	九、六、四九	九五、四七	九五、四七	一、九	一一
椿	椿東分	九、五、一七	九五、一七〇	九、五、五二	九五、三一	九五、三一	二、〇	一一
六	六島	九、三、六二	九三、六二〇	一〇〇、〇〇〇	九五、一七	九五、一七	二、一	一一
篠	篠生	九、七、三九	九七、三九〇	九、一、一五	九五、一三	九五、一三	二、二	一一
福	福川	九、一、六七	九一、六七〇	九、七、四二	九三、七二	九三、七二	二、三	一一
德	德佐	九、一、一三	九一、一三〇	九、六、〇〇	九二、九〇	九二、九〇	二、四	一一
生	生雲	九、〇、六七	九〇、六七〇	九、五、八〇	九二、七一	九二、七一	二、五	一一
地	地福	八、九、三八	八九、三八〇	九、三、四六	九一、二一	九一、二一	二、六	一一
見	見島	八、七、三〇	八七、三〇〇	六、五、〇〇	八四、九三	八四、九三	二、七	一一
本月郡平均		九五、九六	九五、九六〇	九六、三六	九六、九七	九六、九七	一	一一
前月郡平均		九一、一二	九一、一二〇	九一、四六	九一、〇〇	九一、〇〇	一	一一

第三十號

備考	合計	大正七年度ハ其年四月ヨリ十二月迄ノ納期ニ就キ調査ス																	
		川上生雲	篠生雲	地福	徳佐	嘉年	高俣	吉部	福川	紫井	大古	奈郷	宇賀	福佐	彌富	小川	田崎	六島	見島
完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
二六五	二六五	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
二二四	二二四	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
九七	九七	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
六五	六五	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
三七	三七	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
五三	五三	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
一六	一六	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

(七)

第三十號

町村名	三、國稅滯納人員調査表							備考
	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度	前期後期増減	
萩椿郷東分	一八	三二	二九	四二	一七	二四	四六	二二
椿郷東分	四	一七	二	三	一二	一	完納	△
山見田	同	同	同	同	完納	完納	同	△
三木	同	完納	六八	同	同	同	同	△
明々	同	同	完納	同	同	同	同	△
佐々並	同	同	同	同	同	同	同	△
平島	八二	二〇、四	一八、二	一五、八	一五、五	二二、二	二、七	四、八
見島	四〇〇	三〇、〇	一九、〇	一七、〇	一六、〇	一四、〇	二、〇	三
六島	三〇一	二〇、〇	一九、〇	一七、〇	一六、〇	一四、〇	二、〇	三
田崎	九〇八	二〇、〇	一八、〇	一六、〇	一四、〇	一三、〇	一、〇	四
小川	九七九	二〇、〇	一六、〇	一五、〇	一四、〇	一三、〇	一、〇	四
彌富	六三六	二〇、〇	一八、〇	一五、〇	一四、〇	一三、〇	一、〇	四
須佐	一、〇五〇	二〇、〇	一八、〇	一五、〇	一四、〇	一三、〇	一、〇	四
福賀	六四三	一五、〇	一三、〇	一二、〇	一一、〇	一〇、〇	一、〇	四
宇郷	三九一	一三、〇	一二、〇	一一、〇	一〇、〇	九、〇	一、〇	四
奈古	八六五	二〇、〇	一七、〇	一七、〇	一六、〇	一五、〇	一、〇	四

(六)

四、縣稅滯納人員調查表

町村名	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度
萩	二六七	三九一	二二八	一八〇	一、二二六	二七〇
椿郷東分	一二七	一五九	七五	三七	五三	完納
山田	六四	一七	七五	六四	完納	完納
三見	一三	七	七	八	完納	完納
明木	完納	完納	完納	完納	完納	完納
佐並	同	同	同	同	同	同
川上	五	〇	九	三	五	同
篠生	一三	三一	五八	五一	九〇	同
生雲	二	二	三	五	〇	同
地福	一	一	一	一	一	同
徳佐	一	一	一	一	一	同
嘉年	一〇	一	二	一	二	同
高俣	二〇	二六	二五	九	六	同
吉部	一九	一五	三	〇	一	同
福川	三九	一七	二	一	八	同
紫井	三	二	一	六	一	同
大井	五〇	二九	二五	一三	八	同
前期後期増減						△四

五、町村稅滯納人員調查表

町村名	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度
萩	一、八三三	六四四	四四二	四七〇	一、一八二	三七五
椿郷東分	二八二	四五〇	二九七	二八四	二四五	完納
椿	一五二	四七	九四	完納	完納	完納
山田	一〇七	七三	二八七	一八二	一四八	同
三見	二五五	一〇五	二七四	一四四	完納	同
前期後期増減						△七

備考表中△ハ減ヲ示ス

合計	八二〇	一、二八四	九七四	七一〇	一、六三六	四三三
奈古	一五	二六	三三	一四	一六	完納
宇郷	二	七	三	一	四	同
福賀	三六	三二	二五	二九	四四	同
須佐	一二	二五	六六	一〇	八四	同
彌富	七	一九	二九	一五	一三	同
小川	三	三	七	五	五	同
田崎	六	八	六	四	二	同
田島	一	完納	完納	完納	完納	同
六島	一	完納	完納	完納	完納	同
見島	一	同	同	同	同	同
合計	八二〇	一、二八四	九七四	七一〇	一、六三六	四三三
前期後期増減						△四

明木	佐並	川上	篠生	地福	嘉年	高侯	吉部	福川	紫井	大井	奈古	宇郷	福賀	須佐	彌富	小川	田崎
完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

六、戸數割附加稅滯納人員調査表

町村名	大正元年度	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度	前助徴財増減
萩	二、〇二〇	一、九四九	一、九二九	二、〇六一	一、九〇七	一、四六四	六七	一一
椿郷東分	一、一三二	一、二八〇	一、二三〇	一、〇一五	五七二	三二五	完納	完納
山田	四八三	一三九	一六	三九	完納	完納	完納	完納
三見	二二一	一九九	一〇一	二三七	一七九	一二五	完納	完納
明木	四〇二	二三九	一四五	一四五	四八	完納	完納	完納
佐々並	一〇一	完納	完納	完納	完納	完納	完納	完納
川上	四〇二	同	同	同	同	同	同	同
篠生	四〇二	四三	四六	七一	三六	二四	同	同
生雲	四二二	三六九	三九八	四一三	一八六	一〇六	完納	完納
合計	三、八四四	四、四五八	四、〇五九	三、二三一	三、一七八	三、一七八	四七六	六五

備考 一、大正七年度ハ其年四月ヨリ十二月迄ノ納期ニ就キ調査ス
 一、表中△ハ減ヲ示ス

第三十號

第三十號

成績順		平均時間	成績順		平均時間	成績順		平均時間	成績順		平均時間	成績順		平均時間
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
木間	明福	地福	川上	篠目	白水	宇田	鈴野	椿東	奈古	上小	椿西	持坂	彌富	
二四、四	二四、五	二五、二	二五、三	二五、三	二六、〇	二六、〇	二六、〇	二六、二	二六、五	二六、七	二六、八	二六、八	二六、八	
木間	地福	佐々	明倫	明倫	持坂	椿東	奈古	木間	鈴野	相島	立野	大井	育英	上小
三三、〇	三三、二	三三、〇	三三、〇	三三、一	三三、四	三三、六	三三、八	三三、八	三三、八	三三、八	三三、八	三三、八	三三、八	三三、八
紫福	明福	地福	半東	椿東	奈古	木間	鈴野	相島	立野	大井	育英	上小	生雲	
三三、一	三三、三	三三、五	三三、九	三三、九	三三、九	三三、九	三三、九	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三三、六	
木間	持坂	紫福	明木	半東	椿東	奈古	川上	福倫	吉部	多磨	福川	藏喜	大島	
一九、六	一九、八	一九、八	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	
持坂	紫福	明木	半東	椿東	奈古	木間	川上	福倫	吉部	多磨	福川	藏喜	大島	
一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	一九、〇	
明木	紫福	椿西	福川	半東	木間	地福	篠目	吉部	福倫	立野	高野	大島	椿東	
一九、七	一九、七	一九、七	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	
明木	紫福	椿西	福川	半東	木間	地福	篠目	吉部	福倫	立野	高野	大島	椿東	
一九、七	一九、七	一九、七	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	
明木	紫福	椿西	福川	半東	木間	地福	篠目	吉部	福倫	立野	高野	大島	椿東	
一九、七	一九、七	一九、七	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	一九、六	

(15)

小學校兒童體力調查表

女之部

見島	小川	野呂
三〇、〇	三〇、五	三六、三
福田	小川	野呂
二七、一	二七、二	三三、八
小川	下小	野呂
二五、四	二六、三	三三、〇
大井	小川	野呂
三三、四	三三、八	三〇、〇
嘉年	下小	野呂
三三、〇	三三、〇	三六、〇
下小	相島	野呂
三三、〇	三三、〇	三六、〇

彌富	上小	大島	椿東	白水	篠生	高野	立野	相島	藏喜	紫福	三見	奈古	長高	育英	福倫	明倫	下小	多磨	嘉年	高侯		
二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	
高井	大英	育英	白水	川上	龜山	多磨	立野	紫福	篠目	藏喜	相島	德佐	高侯	福川	半田	下小	鈴野	吉部	三見	奈古	見島	
二四、〇	二四、一	二四、一	二四、二	二四、二	二四、四	二四、四	二四、四	二四、五	二四、六	二四、七	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八	二四、八
鈴野	宇田	越ヶ	吉部	福川	多磨	立野	長高	篠生	高野	立野	相島	半田	高侯	大島	明倫	育英	藏喜	嘉年	德佐	見島	奈古	
三三、〇	三三、二	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三
鈴野	白水	木間	佐々	三見	篠生	大島	吉部	字田	藏喜	明倫	越ヶ	高侯	嘉年	奈古	篠目	福田	龜山	下小	相島	見島	福田	
三三、〇	三三、二	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三	三三、三
篠目	小川	地福	長高	大島	篠生	彌富	多磨	白磨	藏喜	半田	上小	越ヶ	立野	龜山	見島	立野	嘉年	篠生	越ヶ	多磨	奈古	德佐
二〇、一	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二
彌富	椿東	大島	長高	三見	高野	生雲	半田	福田	小川	白磨	藏喜	見島	上小	立野	嘉年	篠生	越ヶ	多磨	奈古	德佐	見島	
一九、六	一九、七	一九、七	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九
彌富	椿東	大島	長高	三見	高野	生雲	半田	福田	小川	白磨	藏喜	見島	上小	立野	嘉年	篠生	越ヶ	多磨	奈古	德佐	見島	
一九、六	一九、七	一九、七	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九	一九、九

(14)

三見	三〇、七	生雲	三〇、八	見島	三〇、九	育英	三〇、一〇	小島	三〇、一一	德川	三〇、一二	野呂	三〇、一三
下小川	二七、五	嘉年	二七、六	福川	二七、七	福川	二七、八	持坂	二七、九	小川	二七、一〇	野呂	二七、一一
立野	二五、六	白雲	二五、七	下小川	二五、八	見島	二五、九	嘉年	二五、一〇	小川	二五、一一	野呂	二五、一二
福田	二四、三	福英	二四、四	育英	二四、五	龜山	二四、六	德川	二四、七	下小川	二四、八	野呂	二四、九
彌富	二三、一	相島	二三、二	嘉年	二三、三	生雲	二三、四	見島	二三、五	德川	二三、六	野呂	二三、七
三見	三三、一	彌富	三三、二	立野	三三、三	白雲	三三、四	上小川	三三、五	相島	三三、六	野呂	三三、七
小川	三三、八	見島	三三、九	福田	三三、一〇	育英	三三、一一	德川	三三、一二	下小川	三三、一三	野呂	三三、一四
高瀬	三三、一五	見島	三三、一六	立野	三三、一七	白雲	三三、一八	上小川	三三、一九	相島	三三、二〇	野呂	三三、二一
立野	三三、二二	福田	三三、二三	育英	三三、二四	龜山	三三、二五	德川	三三、二六	下小川	三三、二七	野呂	三三、二八
立野	三三、二九	福田	三三、三〇	育英	三三、三一	龜山	三三、三二	德川	三三、三三	下小川	三三、三四	野呂	三三、三五

小學校兒童體力調查表

高等科男女之部

椿西	三三、三	椿西	三三、四	椿西	三三、五	椿西	三三、六	椿西	三三、七	椿西	三三、八	椿西	三三、九	椿西	三三、一〇
明木	三五、三	明木	三五、四	明木	三五、五	明木	三五、六	明木	三五、七	明木	三五、八	明木	三五、九	明木	三五、一〇
地福	三六、四	地福	三六、五	地福	三六、六	地福	三六、七	地福	三六、八	地福	三六、九	地福	三六、一〇	地福	三六、一一
多磨	三七、六	多磨	三七、七	多磨	三七、八	多磨	三七、九	多磨	三七、一〇	多磨	三七、一一	多磨	三七、一二	多磨	三七、一三
奈古	三八、三	奈古	三八、四	奈古	三八、五	奈古	三八、六	奈古	三八、七	奈古	三八、八	奈古	三八、九	奈古	三八、一〇
生雲	三八、三	生雲	三八、四	生雲	三八、五	生雲	三八、六	生雲	三八、七	生雲	三八、八	生雲	三八、九	生雲	三八、一〇
育英	三八、三	育英	三八、四	育英	三八、五	育英	三八、六	育英	三八、七	育英	三八、八	育英	三八、九	育英	三八、一〇
大白	三八、五	大白	三八、六	大白	三八、七	大白	三八、八	大白	三八、九	大白	三八、一〇	大白	三八、一一	大白	三八、一二
大井	三八、五	大井	三八、六	大井	三八、七	大井	三八、八	大井	三八、九	大井	三八、一〇	大井	三八、一一	大井	三八、一二
川上	三八、六	川上	三八、七	川上	三八、八	川上	三八、九	川上	三八、一〇	川上	三八、一一	川上	三八、一二	川上	三八、一三
椿西	三三、〇	椿西	三三、一	椿西	三三、二	椿西	三三、三	椿西	三三、四	椿西	三三、五	椿西	三三、六	椿西	三三、七
嘉年	三三、〇	嘉年	三三、一	嘉年	三三、二	嘉年	三三、三	嘉年	三三、四	嘉年	三三、五	嘉年	三三、六	嘉年	三三、七
椿西	三三、〇	椿西	三三、一	椿西	三三、二	椿西	三三、三	椿西	三三、四	椿西	三三、五	椿西	三三、六	椿西	三三、七
地福	三三、〇	地福	三三、一	地福	三三、二	地福	三三、三	地福	三三、四	地福	三三、五	地福	三三、六	地福	三三、七
多磨	三三、〇	多磨	三三、一	多磨	三三、二	多磨	三三、三	多磨	三三、四	多磨	三三、五	多磨	三三、六	多磨	三三、七
奈古	三三、〇	奈古	三三、一	奈古	三三、二	奈古	三三、三	奈古	三三、四	奈古	三三、五	奈古	三三、六	奈古	三三、七
生雲	三三、〇	生雲	三三、一	生雲	三三、二	生雲	三三、三	生雲	三三、四	生雲	三三、五	生雲	三三、六	生雲	三三、七
育英	三三、〇	育英	三三、一	育英	三三、二	育英	三三、三	育英	三三、四	育英	三三、五	育英	三三、六	育英	三三、七
小島	三三、〇	小島	三三、一	小島	三三、二	小島	三三、三	小島	三三、四	小島	三三、五	小島	三三、六	小島	三三、七
德川	三三、〇	德川	三三、一	德川	三三、二	德川	三三、三	德川	三三、四	德川	三三、五	德川	三三、六	德川	三三、七
野呂	三三、〇	野呂	三三、一	野呂	三三、二	野呂	三三、三	野呂	三三、四	野呂	三三、五	野呂	三三、六	野呂	三三、七

前年計	合見	六島	田島	小万	彌川	須富	福佐	宇田	郷
三、一五六	三、四三〇			八七	一〇一	六五	四六	一一四	一四六
一七四	二二八			二一	三四	七	一八	八	八
六四一	六八五			三	一〇	四	二	五六	二
四二〇	四四三			二七	一七	二		一八	
二八六	四八四				七	二		一五	一〇四
七七〇	九一〇			二四	二〇	一〇	二六	五	
四三二	三一			九	三	四		二	
四三三	三六九			一三	一〇	七		一〇	三二

俯仰天地に愧ぢず。(孟子)

能く身を修め内に省みて疚しきところがなければ、仰いて上天に對し、俯して下地に對し少しも愧づることはないのである。

不孝に三あり、後なきを大と爲す。(孟子)

註に曰く、「禮に於て不孝の者三事あり、意に阿り曲げ従ひて親を不義に陥いる、一なり、家貧しく親老いて祿仕を爲さず、二なり、要らずして子なく先祖の祀を絶つ、三なり、三者の中後なきを大なりとす」と即ち子孫を断つを以て不孝の最も大なるものとしてゐる。